

物流を止めない！ —大雪時の道路交通対策—

近年、24時間降雪量の増大や積雪の深さが観測史上最大を更新するなど、集中的な大雪が局所的に発生しています。大雪によって幹線道路が通行止めになれば、物流がストップしてしまい、国民生活や企業活動に多大な影響を与えます。物流ニーズが多様化するなか、国は大雪時の道路交通を確保する対策として、“大規模な車両滞留の抑制”と“通行止め時間の最小化を図っていく”といった提言をまとめました。そこで今回は、同提言において運送業界に求められている取り組みについて紹介します。



大雪時の道路交通確保対策は喫緊の課題

昨年1月下旬、東京都心では4年ぶりに積雪が20cmを超える降雪となりました。また、同年2月には北陸地方を中心に降雪が続き、福井県福井市では最深積雪が140cmを超える記録的な大雪となり、交通が寸断されたことは記憶に新しいでしょう。大雪の定義や道路交通に影響を与える雪の量は地域によって異なりますが、大規模な車両滞留や長時間の通行止めを引き起こす大雪は、全国で毎年のように発生しています。

一方、貨物輸送は通信販売の急速な利用拡大などを背景に、小口多頻度化が急伸。消費者のニーズが

多様化している今、柔軟に対応できるトラック輸送は大きな役割を担っています。しかし大雪によって道路網が寸断されれば、大規模な車両滞留が発生し、コンビニエンスストアやスーパーマーケットでの品薄・品切れ、荷物の配達遅延、部品の未達による工場生産の中断など、国民生活や企業活動に大きな影響を与えかねません。よって、大雪時における車両滞留の発生抑制や通行の早期再開は、物流を止めず、経済活動や国民の安全・安心を確保するためにも喫緊の課題になっています。

チェーン未装着の大型車が車両滞留の一因に

集中的な大雪によって高速道路は早期に通行止めになり、並行する国道などに車両が流れ込むことで、大規模な車両滞留につながるケースが多くみられます。滞留の原因のひとつに「チェーン未装着の大型車による影響」があげられており、例えば2015年度では、国道において立ち往生した車両は500台以上で、約6割が大型車でした。そのうち、冬用タイヤは装着しているものの、チェーン未装着であった車両は

約9割を占めていました。

昨年11月、国土交通省は冬期道路交通確保対策検討委員会を開催し、大雪時における道路交通への障害を減らすための具体的な方策や取り組むべき課題について検討。道路管理者(国・都道府県等)はもちろん、道路利用者である運送事業者に対しても、道路交通確保に向けた取り組みを求めています。

プロとしてチェーンの携行を徹底

委員会による「大雪時の道路交通確保対策 中間とりまとめ」において、運送事業者には「集中的な大雪時の利用抑制・迂回」のほか「タイヤチェーンの装備、携行品の準備」が求められています。

運送事業者の皆さんは、降雪が予想される地域を運行する場合、チェーンの備えを徹底しましょう。必ずタイヤのサイズに合ったものを選び、事前に装着の練習をしておくことで、実際の雪道での装着時にスムーズに作業ができます。また気象状況や路面状況の急変があることも踏まえ、車内に防寒着や軍手、長靴なども携行しておくことも大切です。そして、ドライバーに

対して冬期の運転に必要な心得(出発前の気象情報の確認、降雪時の安全な運転方法、地吹雪などの緊急時の対応など)も周知してください。なお、全日本トラック協会では、雪道走行時の心得や雪道の注意スポットを紹介したパンフレットを公開しています。

運送事業者として物流を止めないことは責務です。今年も、“想定外の大雪”になる可能性があるなかで、チェーンの携行などの徹底は、道路を借りて走るプロとして何よりも重要です。

常備したい冬道走行の必需品



全日本トラック協会のホームページから「雪道対策」を紹介したパンフレットをダウンロードできます。降雪が本格化するなか、改めてご確認ください。

雪道対策について

出典：冬期道路交通確保対策検討委員会「大雪時の道路交通確保対策 中間とりまとめ」(公社)全日本トラック協会「降雪地域を運行する方へ 雪道対策マニュアル」